



# 「小中高の系統性を踏まえた 授業のポイント」

～ 指導力の向上を目指して ～



## 宮崎県教育研修センター

平成25年2月



## 言語活動の充実を通して 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る授業を

ポイント1

「的確に理解する力」、「論理的な思考力と表現力」、「伝え合う力」を育成するために、言語活動を授業に取り入れる。

- ◎ 小学校においては、漢字の読み書き、音読や朗読、対話、発表などにより、日常生活に必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。
- また、中学校においては、古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動により社会生活に必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。
- 高等学校では、討論、解説、創作、批評、編集などの言語活動により社会人として必要な国語の能力の基礎を育成することが大切です。



ポイント2

1時間の授業の中で、指導事項を明確にし、目的に応じた伝え合う活動や、学習内容等を振り返る活動を工夫する。

授業の流れを明確にすること	
導入	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">指導事項を明確に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導事項と関連のある学習課題(問題)を提示する。</li> <li>○ 読み取る視点や調べる観点等を示しながら、学習の見通しをもたせる。</li> </ul>
展開	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">目的に応じた伝え合う力を高める学習を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題(問題)について、自力で解決する場と相互に意見交換する場を設定する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えをノート等に記述させ、グループ等で話し合わせる。</li> </ul> </li> <li>○ 目的に応じた伝え合う力を高める学習を設定することで、自分の考えが深まるようにする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校種や学年の発達段階に応じて「話型表」や「グループでの話し合い方」等の参考となるモデルの活用を図りながら学習させる。</li> </ul> </li> </ul>
終末	<p style="background-color: #fff3cd; padding: 5px;">学習内容等の振り返りを</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習内容や成果を振り返る場を設定する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ この時間で、どのような国語の力を身に付けることができたか、児童生徒が自分自身の学習を振り返ることができるように自己評価等をさせる。</li> </ul> </li> </ul>



## すべての領域で、「言語活動」を通して指導する。

言語活動を通して、どんな力を身に付けさせたいのか、どんな力を活用させたいのか、これからの学習にどう結び付けたいのかなど、学習のねらいを踏まえて、単元の指導計画を立てたり、授業の構成を考えたりすることが大切になります。

### 「書く力」を伸ばすために、次のような言語活動を！

小学校1・2年

★ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

小学校3・4年

★ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

小学校5・6年

★ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

中学校1年

★ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

中学校2年

★ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

中学校3年

★ 関心ある事柄について、批評する文章を書くこと。

高等学校

★ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。

## 自分の考えを記述させる学習場面を設定する。

記述する力を身に付けるためには、記述する機会を多く設定し、記述することに慣れさせる必要があります。また、身に付けた記述する力を実際に活用させることで、より確かな記述する力が定着します。

### 記述する力を身に付けるためのポイント

#### 【指導の基本として】

- ◎ 発達段階に応じて、語彙を豊かにするため適切な教材を取り上げること。
- ◎ 読書活動を推進すること。(家庭との協力を！)
- ◎ 言語環境を整備すること。(辞書、新聞、学校図書館を身近に！)
- ◎ 小・中学校では、ノート指導を徹底すること。

#### 【具体的な手立てとして】

- 目的意識、相手意識をもたせる。
- モデルを示して記述の仕方を身に付けさせる。
- 自分が身に付けた記述する力を実感させる。
- 記述したものを、児童生徒が相互に批評し合える場を設定する。
- 内容や構成だけでなく、表記に関する指導にも気を配る。

学校図書館の活用も図ろう！



記述する力を身に付けることは、「考える力」の育成につながります！

# 子どもたちにとって知的に面白い社会科授業を

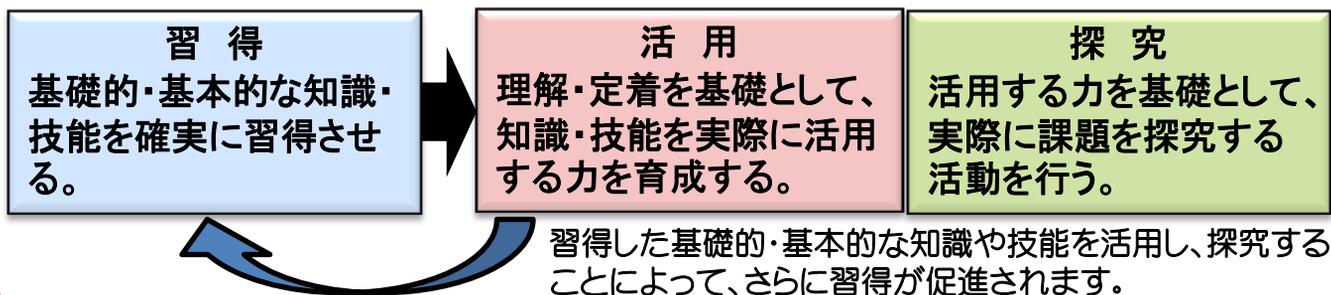
～「確かな学力」を育成する社会科授業をめざして～

## ポイント1

「習得・活用・探究」を意図した単元の指導計画を立てる。

児童生徒に社会的な見方や考え方を育成するために、「習得・活用・探究」を意図した指導計画をたて、**教えることと考えさせることを明確にすることが大切です。**

### 【1単元における指導計画の概要】



## ポイント2

「問題解決的な学習」を中心とした学習過程を工夫する。

(1単位時間の授業展開のポイント例)

授業で心がけたいこと	
導入	<b>習得の確認</b> ○ 小テスト等を活用して、前時の基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を確認する手立てを工夫する。
	<b>関心・意欲を高める工夫</b> ○ 実物教材等を効果的に提示し、「なぜ？」と疑問をもたせるような導入を行う。
展開	<b>追究したくなる学習問題</b> ○ すぐには答えが導き出せないような、学習意欲を高める学習問題を設定する。 ※ 「～しよう」ではなく「なぜ～だろうか」が基本！
	<b>作業的、体験的な学習</b> ○ 観察や調査、資料の活用にかかわる技能を系統的に指導する。
	<b>言語活動の充実</b> ○ 習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用し、「説明」、「論述」、「解釈」、「判断」、「読み取り」、「表現」などの言語活動を行う。
	<b>板書の構造化(児童生徒の学び)</b> ○ 1単位時間の板書から、その授業の構造が見えるようにする。
終末	<b>学習のまとめ</b> ○ 必ず、学習問題の解決につながるまとめを行う。
	<b>習得の確認</b> ○ 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を確認する手立てを工夫する。

### ポイント3

## 「基礎的・基本的な知識・概念や技能」の習得を図る。

「思考力・判断力・表現力」を育成するためには、習得した基礎的・基本的な知識・概念や技能を活用することが大切です。そのことが「学び」の質の向上につながります。

小学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎47都道府県の名称と位置(地図帳の活用、白地図での作業)</li><li>◎世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置(地球儀を積極的に活用する学習)</li><li>◎「観察や調査」、「資料の活用」に関する技能の習得</li></ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎世界と日本の地域構成、世界の地理的認識、日本の地域的特色を動的にとらえる学習(地理的分野)</li><li>◎球面上の位置関係、地理情報の活用、地図の活用に関する技能(地理的分野)</li><li>◎学習した内容を比較し関連付け、各時代の特色をとらえる学習(歴史的分野)</li><li>◎見方や考え方の基礎となる、対立と合意、効率と公正についての理解(公民的分野)</li><li>◎政治、経済、国際社会に関する諸事象を通して、現代社会をとらえるための見方や考え方について理解する学習(公民的分野)</li></ul>
高等学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎地図、年表などを活用し、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解する学習(世界史)</li><li>◎様々な資料の活用を重視し、地理的条件と世界の歴史とを関連させながら、主題を設定して我が国の歴史を総合的に理解する学習(日本史)</li><li>◎世界の自然環境、資源・エネルギー、人口、産業などに関する事象の考察を通して、地理的な見方や考え方を培う学習(地理)</li></ul>

### ポイント4

## 「言語活動」の場면을意図的に取り込む。

「説明」、「論述」、「解釈」、「判断」、「読み取り」、「表現」といった「言語活動」の手立てを意図的に位置付けた授業展開を行い、「思考力・判断力・表現力」を育成することが大切です。

小学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎調べたことをしっかりと記録し、観点を決めてそれらをまとめ、そこから考えられることを相手にわかるように表現する。(第3、4学年)</li><li>◎調べたことや社会事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明する。(第5、6学年)</li></ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎地図の読図や作図、地図や資料を活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換するなどの学習活動を行う。(地理的分野)</li><li>◎学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動などを通して、歴史的事象について考察・判断し、自分の言葉で表現する学習活動を行う。(歴史的分野)</li><li>◎習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりする学習活動を行う。(公民的分野)</li></ul>
高等学校	<ul style="list-style-type: none"><li>◎現代社会の諸課題を取り上げて、議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりする学習活動を行う。(現代社会)</li><li>◎先哲の考えを取り上げて、諸価値についての理解と思索を深めさせると同時に、課題追究的な学習や討論を行うことで、自己の生き方を探求できるようにする。(倫理)</li></ul>

### ポイント5

## 「社会参画、伝統・文化に関する学習」を一層重視する。

地域社会の発展に貢献し、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての実感を具体的な授業場面で高めさせたり、様々な伝統文化の学習を通して、日本人としての自覚を高めさせたりする学習を、小中高で系統的に取り入れる必要があります。

- ◎よりよい社会の形成へのかかわる学習内容
- ◎我が国の伝統・文化を一層重視した学習内容

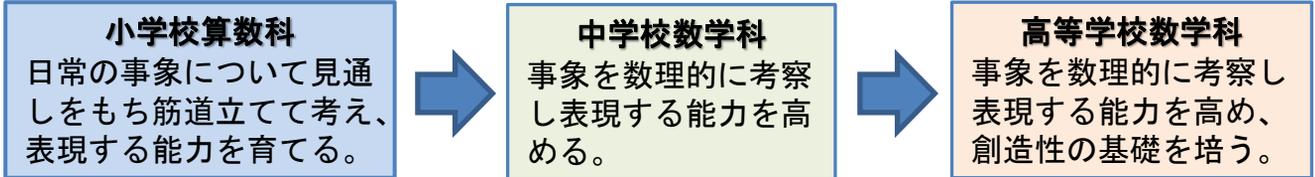
# 分かる喜びや、考える楽しさを実感させる算数・数学の授業を

## 「しっかり教える じっくり考えさせる」授業に取り組みましょう

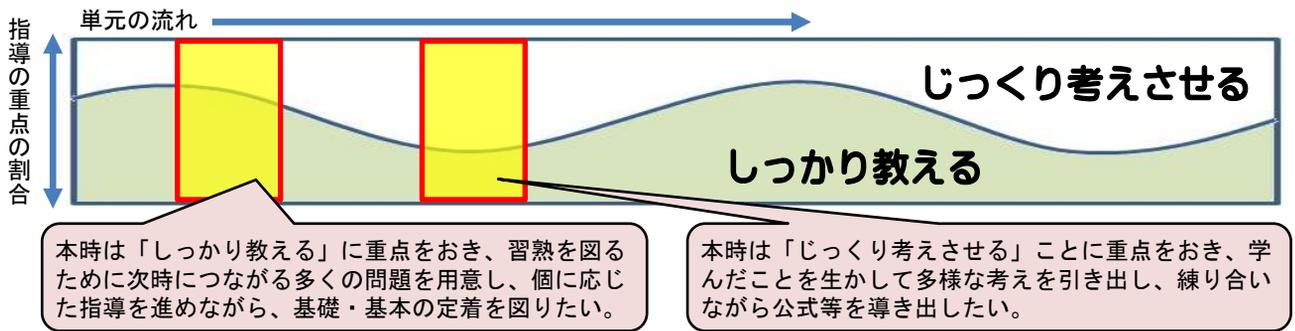
### ポイント 1

小・中・高等学校における算数・数学科の目標を体系的にとらえ、各領域の指導内容を踏まえて、単元の中で、「しっかり教える」内容と「じっくり考えさせる」内容を意識して指導計画を立てる。

学習指導要領で示された算数・数学科の目標（一部）

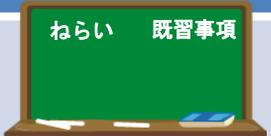


単元の指導イメージ（例）



### ポイント 2

1時間の授業で、ねらいを明確にし、めりはりのある学習過程を工夫し、ねらいの達成状況を確認に見届ける。教えなければならない内容は、教師が「しっかり教える」。

授業で 心がけたいこと	
導入	<p><b>ねらいを明確に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題(問題)を黒板等に分かりやすく示す。</li> <li>○ 前時の復習等を適宜取り入れ、学び直しの機会を設ける。</li> </ul> 
展開	<p><b>めりはりをつけて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「しっかり教える」「じっくり考えさせる」のどちらに重点をおいた授業なのか、学習方法や時間配分を考えて学習過程を工夫する。</li> <li>※ 問題解決的な学習過程を固定的にとらえるのではなく、ねらいに応じて柔軟に設定する。</li> <li>○ 何を「教師が教え」、何を「子どもに考えさせる」のかを、ねらいに応じて明確にする。</li> <li>○ ねらいに応じた算数・数学的活動を適切に位置付ける。</li> <li>○ 自力解決の場面と学び合いの場面を設定する。</li> <li>○ 学習内容に「活用する問題」を適宜取り入れる。</li> </ul> 
終末	<p><b>ねらいの達成を確実に見届ける</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定着・発展問題等を行う時間を確保し、習熟の機会を適宜設ける。</li> <li>○ 学習内容や学び方を振り返る場を設定する。</li> </ul> 

### ポイント 3

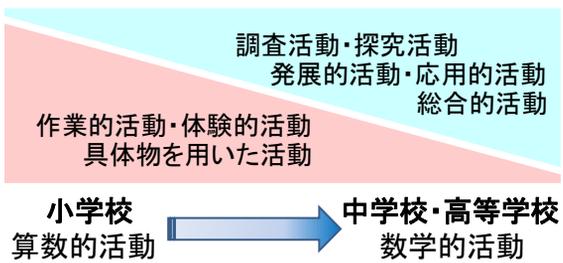
すべての領域で、「算数・数学的活動」を通して指導するとともに、算数・数学のよさを実感させる。

### 算数・数学的活動とは…

児童生徒が目的意識をもって主体的に取り組む算数・数学にかかわりのある様々な活動

### よさを実感させる活動を…

#### 発達の段階に応じた算数・数学的活動の変化



★ **小学校**では、ものづくりをするなどの作業的活動、数や量の大きさを確かめるなどの体験的な活動等を通して、活動の楽しさを児童に気付かせましょう。

★ **中学校**では、数学的な表現や処理のよさ、基礎的な概念や原理・法則のよさ、数学的な見方や考え方のよさを実感させ、生徒の意欲を高めましょう。

★ **高校**では、数学の特長、数学的活動や思索することの楽しさなどの数学のよさや意義を認識させ、生徒の主体的な取組を促しましょう。

★ 算数・数学的活動の手立てとして、**言語活動**を充実させ、基礎・基本を定着させるとともに、**活用する力**を向上させることが大切です。

◆ **活用する力**とは ◆ (宮崎県)  
身に付けた知識・技能をもとに、自ら考え、判断し、表現しながら課題を解決する力

### ポイント 4

自力解決と学び合いの場面の役割を明確にし、考えさせることを焦点化する。

#### 自力解決の場面

すべての子どもが自分なりに課題解決に向かう時間

★ 何をどのように自力解決させるのか、明確な指示と、一人一人の状況の把握がポイント

##### 【具体的な活動例】

- 分からないこと、解決すべきことに気付く
- 自分の考えをもつ
- 自分の考えをかき表す (言葉・数・式・図・表などを用いて)
- 自分の考えを整理する
- 自分の考えの説明の仕方を考える

#### 学び合いの場面

集団思考(ペア・グループ・全体)によって、すべての子どもが分かる時間

★ 考えを深め合い、課題を解決するための発問がポイント

(根拠・比較・関連付け・ゆさぶり等)

##### 【具体的な活動例】

- 自分の考えや解決方法を伝え合う
- 他の考えにふれ、理解を深める
- 多様な考えを比較・検討し、共に課題を解決する
- 重要なことがらを共有し、まとめる
- 他の視点で自分の考えを振り返る



### ポイント 5

小中高における継続した指導で、学び方や学習技能を身に付けさせる。

# 科学的な見方や考え方を育てる授業をめざして

## 科学的な思考力・表現力を高める指導を！

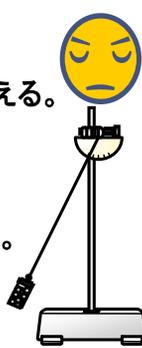
ポイント  
1

目的意識(見通し)をもって観察、実験を主体的に行う。

観察、実験は学習問題の結論を出すための手段であり、観察、実験自体が学習の目的ではありません。  
この意識を教師、児童生徒が共有することが大切です。

ポイント  
2

疑問をもとに、検証できる学習問題を設定し、検証結果を考察して、学習問題の結論を出す。

	授業で心がけたいこと	問題解決的な学習
導入	<p><u>事象提示をする</u> 興味・関心を高め、学習問題につながる事象提示が重要です。</p> <p><u>学習問題を設定する</u> 疑問から科学的に検証可能な学習問題を設定しましょう。 (例)ふりこが1往復する時間は、どんな条件で変わるだろうか。 ※ 「科学的」とは、「実証性(観察、実験で検証できる)・再現性(何度検証しても同じ結果が得られる)・客観性(実証・再現され、公認される)」の条件を検討することです。</p>	
展開	<p><u>検証方法を考える</u> 学習問題に対して予想や仮説を立て、観察、実験の計画を立てましょう。 (例)[仮説] おもりの重さを変えると、ふりこが1往復する時間が変わる。 [見通し] おもりの重さを変えて、1往復する時間が変われば、仮説は正しいといえる。 [実験] おもりの重さは10g、20g、30gとする。 ふりこの長さとおもりのふれはば・時間のはかり方をそろえる。</p> <p><u>検証する</u> (例)10往復する時間を3回はかって、1往復する時間を計算で求める。</p> <p><u>結果を得る</u> (例)おもりを10g、20g、30gと変えても、1往復する時間は同じだった。</p> <p><u>結果から考察する</u> (例)おもりの重さを変えても、ふりこが1往復する時間は変わらない。</p>	  
終末	<p><u>結論を出す</u> 仮説や検証方法が正しかったかも含めて結論を出しましょう。 仮説が正しくなかった場合は、仮説の修正からやり直しましょう。 (例)仮説は正しくなかった。ふりこが1往復する時間は、おもりの重さには関係しなかった。 ふれはばに関係があるのかな？ ふりこの長さに関係があるのかな？</p>	

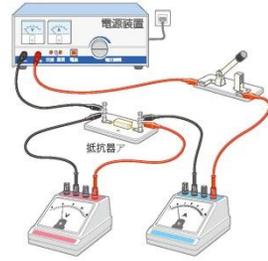
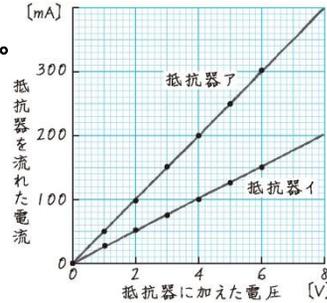
ポイント  
3

「結果」と「結論」の違いを明確にする。

▶【学習問題】(例)電圧と電流の間には、どのような関係があるのだろうか。

【結果の記録】(例)実験結果を表にまとめ、グラフにした。

電圧 [V]	0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0
電流 [mA]							
抵抗器ア	0	50	98	151	200	249	302
抵抗器イ	0	26	52	75	100	126	150



学習問題にかえて  
結論づける

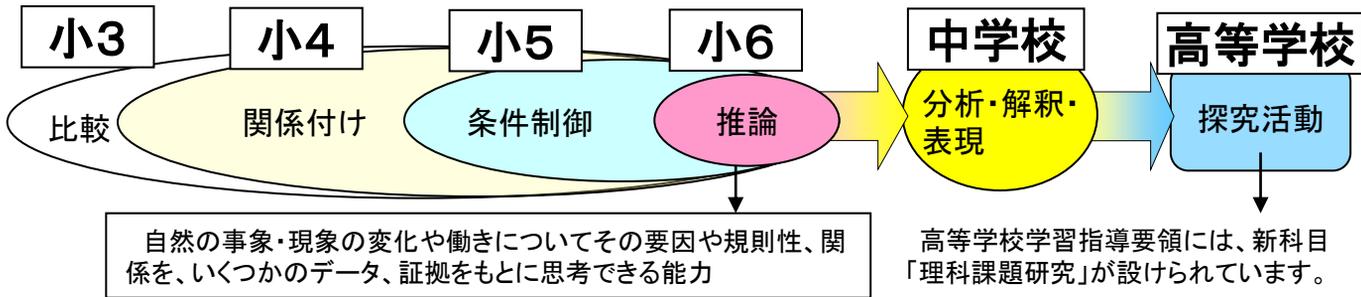
【考察】(例)抵抗器に加えた電圧と電流とは比例の関係にある。

同じ電圧を加えても、抵抗器イは抵抗器アより流れる電流が小さい。

【結論】(例)電圧と電流の間には、比例関係があり、抵抗器によって電流の流れやすさが違う。

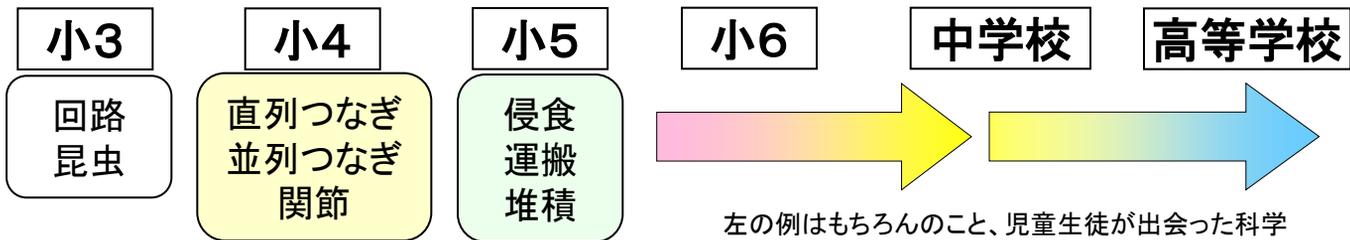
ポイント  
4

各学年で重点を置いて、問題解決の能力の育成を図る。



ポイント  
5

科学的な言葉や概念を正しく理解させる。



観察、実験の考察で使用する言葉の例

左の例はもちろんのこと、児童生徒が出会った科学的な言葉の学びは、単学年では終わりません。言葉だけでなく、概念も正確に理解させましょう。

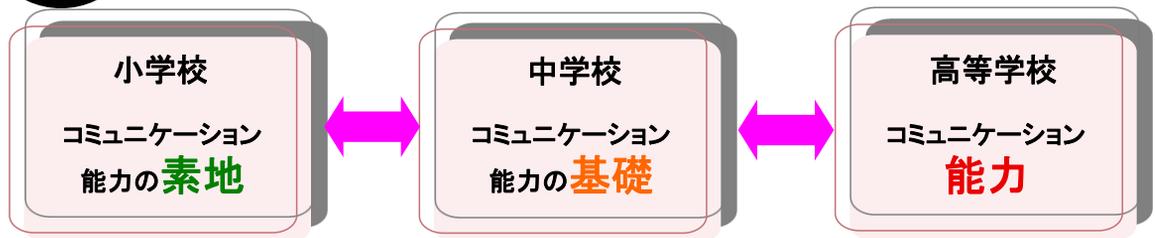
科学的な言葉や概念を使用して考えさせたり、説明させたりすることが大切です。

- 言葉を与えて、考えさせたり、説明させたりしましょう。  
(例)「昆虫」と「虫」とは違います。昆虫とは、( )生き物です。
- レポートの作成や発表の機会を計画的に位置付けましょう。
- わかったことを、科学的な言葉や図、イラストなどで表現させましょう。

言語活動の充実を通して、児童生徒にコミュニケーション能力を育む授業を

ポイント  
1

外国語科の目標をつなぐ指導計画を！



- 小中高における外国語科の目標をつなぐための全体指導計画の見直しを！
- 発達段階に応じたスモールステップの指導の充実を図るための指導計画の作成を！
- (例)「理解」「習熟」「活用」などの学習段階を各校種で工夫し、指導方法の工夫改善を！

ポイント  
2

4技能を総合的に育成する指導の充実を！

【1単位時間の授業展開例～中学校】

(例) 指導上の留意点	
導入	<p><b>本時のねらいを明確にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ この時間に何ができればよいのかを生徒にしっかり理解させる。</li> <li>○ 本時及び単元の学習内容の見通しをもたせ、学習への関心・意欲を高める。</li> </ul>
展開	<p><b>4技能を総合的に育成するための言語活動を工夫する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実際に必然性のある英語の使用場面を想定したコミュニケーション活動を行う。</li> <li>○ コミュニケーション活動を通して、基本的な語彙や文構造の理解を図る。</li> <li>○ 4技能を組み合わせた言語活動を通して、言語運用能力の向上を図る。</li> </ul>
終末	<p><b>学習内容の振り返りをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のねらいが達成されたか、どのような学びがあったかを振り返らせる。</li> <li>○ 次時の学習内容や学習活動につながる課題等を提示し、見通しをもたせる。</li> </ul>

# ポイント 3

「言語の使用場面」や「言語の働き」を意識した言語活動を！



言語の使用場面	
○特有の表現 ・あいさつ ・自己紹介 ・買い物 ・食事 ・道案内	○身近な暮らし ・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子どもの遊び (小学校のみ) など
コミュニケーションの働き	
○相手との関係を円滑にする ○気持ちを伝える ○事実を伝える ○考えや意図を伝える ○相手の行動を促す など	

言語の使用場面	
○特有の表現 ・電話での応答 ・旅行	○身近な暮らし ・小学校と同じ
言語の働き	
○コミュニケーションを円滑にする ○気持ちを伝える ○情報を伝える ○考えや意図を伝える ○相手の行動を促す など	

言語の使用場面	
○特有の表現 ・手紙や電子メールでのやりとり	○身近な暮らし ・社会での暮らし ・小中学校と同じ ・職場での活動
○多様な手段を用いて情報などを得る など	
言語の働き	
○コミュニケーションを円滑にする ○気持ちを伝える ○情報を伝える ○考えや意図を伝える ○相手の行動を促す など	

# ポイント 4

文字指導も系統性をもって、意図的・計画的に！



アルファベットなどを書き写す → 初歩的な英文で → まとまりのある内容で

### 【指導改善のポイント】

- アルファベットにはいろいろな使われ方があることに気付かせる指導の充実を！
- 音と綴りの関係に気付かせる指導の充実を！
- 音声言語と文字言語をつなぐ指導の充実を！
- 自分の思いや考えを文字で表現して伝える指導の充実を！
- 言葉の面白さや豊かさに気付かせる指導の充実を！